

かた ノートのとり方

じょうず づく ちゅうい てん 上手なノート作りのための 注意点

★ 授業を受ける際に、忘れてはならないことは、わかりやすく、あとで見直しをするときに役立つノートをとるといことです。

では、どのようにすれば、上手なノート作りができるのでしょうか？

いくつかの注意点をあげながら、正しいノートのとり方を説明していきます。

①ノートは自分で作る参考書

あとで、見直して、何が書いてあるのかわからないというのでは、ノートをとったことにはなりません。

ノートは、書き方によっては、この世に1冊しかない自分だけの参考書にもなりうるのです。

宿題をひとりでやっていて、わからないところがあった場合、まずノートを見てヒントを見つける習慣をつけるといいでしょう。

②ノートのとり方に自分自身のきまりをつくらう

「必ず日付を書く」

「左はしに教科書の参照ページを書く」

「間違った答えは、消さずに赤でとりに書き直す」

これらは特に有効なきまりです。

③色鉛筆を使ってみよう

普通の鉛筆だけでノートをとっていたのでは、何が重要ポイントなのかよくわかりません。「こだけは必ず覚えておこう」とか「重要だ」と思ったところは、マーカーや色鉛筆を使い、工夫してみましよう。

④ノートは各教科書に1冊ずつ

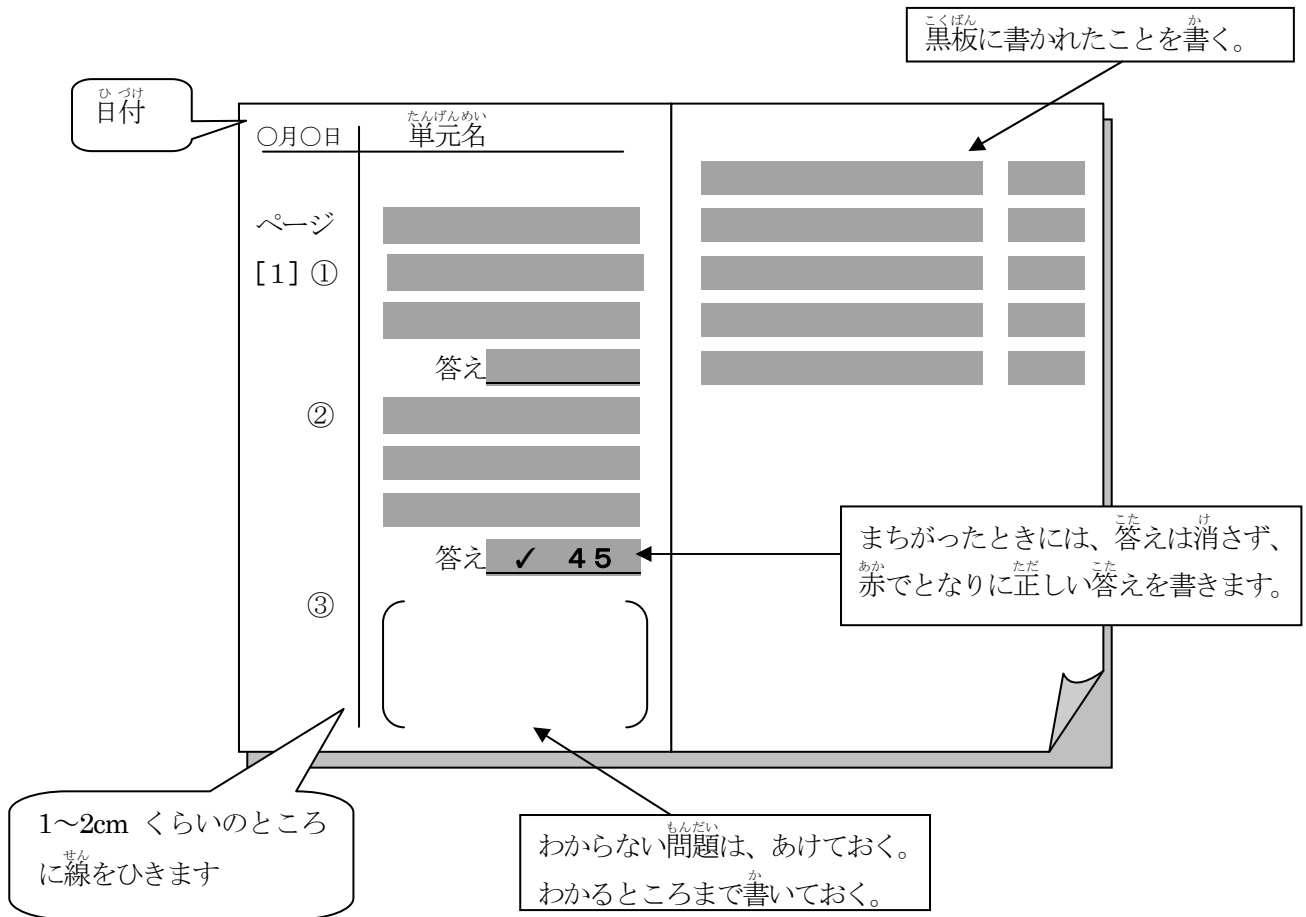
バインダーなどは、あとで見直したり、保管しておく場合に紛失したりして不便なことが多いので、できるだけさけた方がよいでしょう。

⑤参考例

では具体的に、どのようにノートをとればよいのか、参考例をあげておきます。

次の具体例を参考にしながら、自分にもっとも合ったノートのとり方を考えてみてください。

● さんすう すうがく 算数・数学のノートのとりの方(例)



● こくご 国語のノートのとりの方(例)

